

長崎大学薬学部

School of Pharmaceutical Sciences
NAGASAKI UNIVERSITY

GUIDE
BOOK

2026

～ヒトの健康をめざして～





目次 contents

- 01 長崎大学薬学部を目指すあなたへ
- 02 沿革
- 03 カリキュラム
- 04 薬学部の教育理念・目標
- 05 学年別カリキュラム
- 08 大学院について
- 09 キャンパスライフ
- 10 薬学部の入試システム
- 11 研究室紹介
- 13 設備、施設
- 14 下村脩名誉博士顕彰記念館
- 15 進路グラフと就職先
- 17 卒後教育と研究教育の支援
- 18 国際学術交流

長崎大学薬学部を 目指すあなたへ

薬学部長 西田 孝洋



長崎には、シーボルトらにより近代医学・薬学が伝わり、1861年には養生所(長崎大学病院の前身)や医学所(長崎大学医学部の前身)が設置され、1864年に理化学学校を意味する分析窮理所が増設されました。長崎大学薬学部は、第五高等学校医学部薬学科として1890年に創設され、分析窮理所がルーツと考えられています。その長い歴史の中で、ノーベル化学賞を受賞された下村 脩博士を筆頭に多くの優秀な人材を輩出してきました。

本学は被爆の大きな危機を乗り越え、1949年に新制長崎大学の薬学部として発足しました。その後、大学院修士及び博士課程が順次加わり、2002年には、現在の医歯薬学総合研究科として医学・歯学系と統合整備されました。薬学部はこの大学院医歯薬学総合研究科につながる学部組織です。さらに、薬学の大改革である6年制課程が2006年度から始まりました。薬学部では臨床薬剤師と研究者・技術者の育成を基本方針として、薬学科(6年制課程:定員40名)と薬科学科(4年制課程:定員40名)を併置しています。

長崎大学は、プラネタリーヘルスに関する研究や活動を通じて、地球との共生を目指しています。薬学部では「ヒトの健康をめざして」、未知の感染症・疾患に関する問題点を解決するために、日々教育・研究に励んでいます。チーム医療の現場で活躍でき、地域医療に貢献する薬剤師や臨床薬学研究者、高度専門薬剤師を養成するとともに、創薬に関する高度な専門的知識を修得し、医薬品の開発や供給などを担う研究者・技術者を養成することが目標です。薬剤師国家試験の合格率は常に高く、多くの人材を病院薬剤部、薬局に送り出してきました。薬科学科卒業生の多くは大学院に進学し、その後、製薬企業、官公庁、大学、研究所等で活躍しています。

コロナ禍により、Web会議システムを活用する遠隔授業やオンデマンドコンテンツの活用が大きく進展しました。長崎大学では、インターネットを活用する学習管理システムをベースにしたeラーニング環境が整っており、講義の予習・復習のサポートが充実しています。今後は対面を主体として、オンラインを活用するアクティブラーニングを実践していきます。一方、諸外国大学との学術交流では、オンサイトとオンラインを活用する交流による活性化を図っていきます。

未知の感染症を含め様々な疾患を克服するために、医療の場で高度な臨床薬剤師として将来活躍したい、あるいは医薬品の創製・健康・環境分野の研究者・技術者として活躍し、社会に貢献したいと考えている受験生の皆さんは、自分の適性を十分考えたうえで、長崎大学薬学部の目的にかなう学科を選択して入学され、夢を実現されることを願っております。



沿革

シーボルトと同時期に、日本で最初の近代的薬剤師であるビュルガーが長崎に来ました。
また、日本薬局方の創案者のゲールツは長崎医学校で教鞭をとるなど、長崎は近代薬学・近代科学の発祥の地と言えます。長崎大学薬学部は、このような背景のもとで幕末まで源流を遡ることができる全国の中において最も古い歴史と伝統を持つ薬学部で、この歴史を誇りとしています。

HISTORY

- | | |
|-------------|--|
| 1823年（文政6） | 蘭館医シーボルト来崎 |
| 1825年（文政8） | ビュルガー（薬剤師）着任 |
| 1865年（慶応元） | 分析窮理所設立
（長崎大学薬学部の源流） |
| 1866年（慶応2） | 分析窮理所にハラタマ理化学教師着任 |
| 1869年（明治2） | 長崎府医学校にゲールツ着任（後に日本薬局方初版起草） |
| 1876年（明治9） | 長崎司薬場設置司薬監督にエイクマン就任 |
| 1890年（明治23） | 6月 第五高等学校医学部に薬学科創設（6月18日）
（医学部と学科が分かれる。長崎大学薬学部の起源） |
| 1894年（明治27） | 9月 第五高等学校医学部薬学科と改称 |
| 1901年（明治34） | 3月 長崎医学専門学校薬学科と改称 |
| 1923年（大正12） | 4月 長崎医科大学附属薬学専門部と改称 |
| 1945年（昭和20） | 8月 原子爆弾投下 教授以下職員8名、学生38名死亡
一切の建物倒壊炎上 |
| 1949年（昭和24） | 5月 新制長崎大学薬学部として発足 |
| 1965年（昭和40） | 4月 大学院薬学研究科修士課程薬学専攻設置 |
| 1967年（昭和42） | 4月 薬学部に製薬化学科設置
（薬学科および製薬化学科の二学科制となる） |
| 1971年（昭和46） | 4月 大学院薬学研究科修士課程製薬化学専攻設置
（薬学専攻および製薬化学専攻の二専攻制となる） |
| 1986年（昭和61） | 4月 薬学研究科に医療薬科学専攻（博士前・後期課程）設置
（薬学専攻および製薬化学専攻を改組）

薬学部の薬学科および製薬化学科を薬科学科に改組し、
1学科4大講座制となる |
| 1988年（昭和63） | 12月 中国薬科大学中薬学院と学術交流協定締結 |
| 1989年（平成元） | 10月 上海医科大学薬学院と学術交流協定締結 |
| 1998年（平成10） | 10月 ライデン大学と学術交流協定締結 |
| 1999年（平成11） | 3月 チュラロンコン大学薬学部と学術交流協定締結 |
| 1999年（平成11） | 4月 薬学研究科に臨床薬学専攻（博士前・後期課程）設置
薬学研究科医療薬科学専攻を薬科学専攻と改組 |
| 2002年（平成14） | 4月 薬学研究科を医歯薬学総合研究科に改組 |
| 2006年（平成18） | 4月 薬学科（6年制）、薬科学科（4年制）を設置
地域薬剤師卒後教育研修センターを設立 |
| 2010年（平成22） | 2月 下村 脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センターを設立 |
| 2012年（平成24） | 4月 医歯薬学総合研究科に生命薬科学専攻（博士前期・後期課程）および
医療科学専攻展開医療薬学講座（博士課程）設置 |
| 2013年（平成25） | 12月 台北医学大学と学術交流協定締結 |
| 2015年（平成27） | 4月 医療薬学系研究室が坂本地区に移転 |
| 2016年（平成28） | 4月 育薬研究教育センターを設立 |
| 2020年（令和2） | 6月 ニューメキシコ大学薬学部と学術交流協定締結 |
| 2023年（令和5） | 2月 ニューメキシコ大学と大学間学術交流協定締結 |
| 2024年（令和6） | 10月 五邑大学薬学・食品工程学院と学術交流協定締結 |



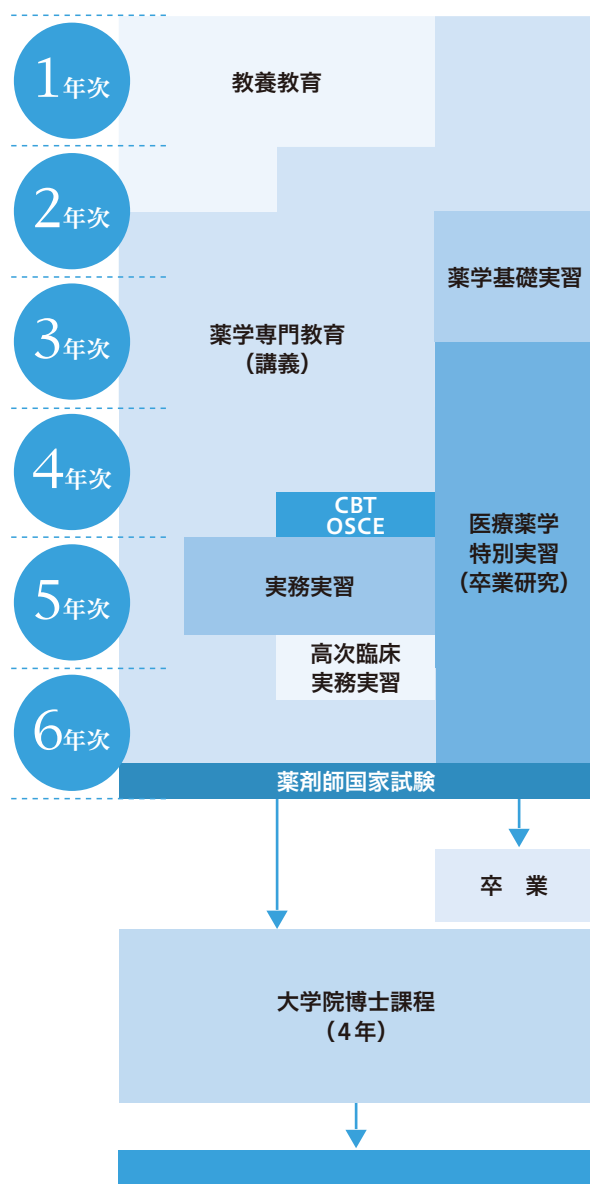


薬学科(6年制・臨床薬剤師養成コース)と 薬科学科(4年制・創薬研究者養成コース)を併設

薬学科 6年制

薬剤師をめざす人

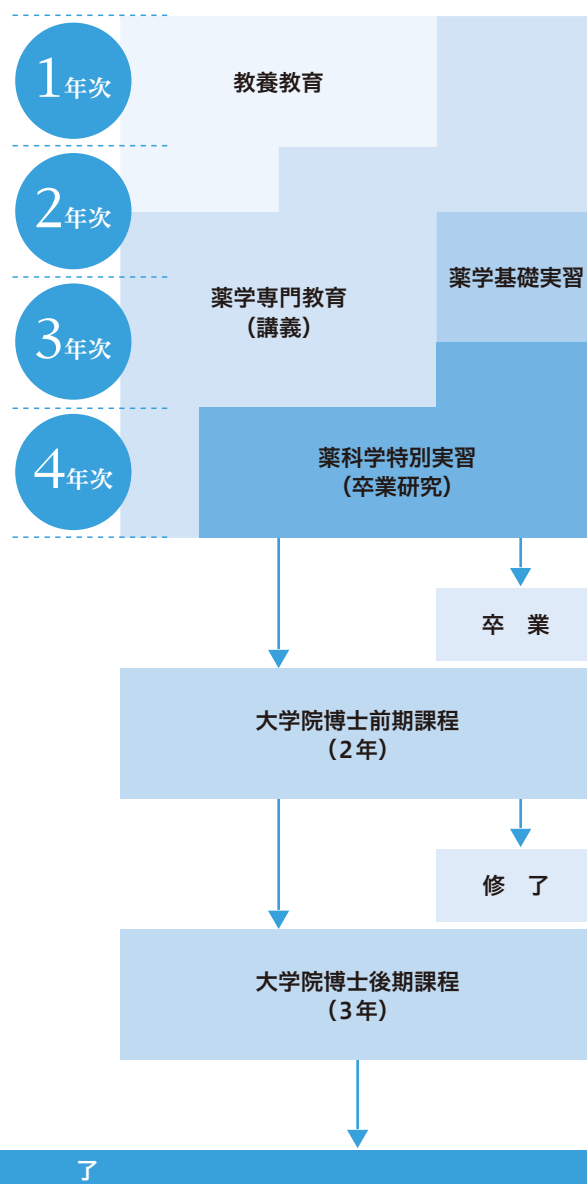
薬学科では調剤能力に加え、きめ細かな服薬指導や薬歴管理ができる高資質な薬剤師の養成をめざしています。豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養など医療の場で通用する実践力を身につけるカリキュラムを組んでいます。



薬科学科 4年制

研究者をめざす人

薬科学科は薬科学領域の幅広い知識、高度な技術をもつ研究者、技術者の養成をめざしています。豊かな人間性、幅広い薬科学の知識と応用力、問題解決能力や創造性を身につけるカリキュラムを組んでいます。



薬学部 of 教育理念・目標

【理念】

「ヒトの健康を目指して」の標語のもと、医薬品の創製、医療、健康・環境に関する基礎および応用の科学を教育、研究すること、ならびに「くすり」の専門家として社会的使命を遂行し得る人材の養成を以て社会に貢献する。

【教育目標】

- ・大学教育における基本的教養と専門の基礎となる幅広い知識を修得させ、豊かな人間性と高い倫理観を持つ人材を育成する。
- ・薬学に関する高度の専門的知識を修得させ、薬の専門家として社会に貢献しうる人材を育成する。

近年の新しい医療技術、先端科学技術の進歩と相まって、薬剤師・薬学研究者に対する社会のニーズは確実に高くなってきています。そのため薬学教育には、医薬品の創製、医療、環境保全に関する基礎やそれらに関連する技術を教えることと、薬の専門家としての社会的使命を遂行できる人材を養成することが求められています。大学での学習の修了は単位の認定によって行われ、卒業するには一定の年限内に決められた以上の単位を修得する必要があります。社会の高いニーズに応えるために薬学部のカリキュラムは、大変密度の濃いものになっています。

教 養 教 育

大学教育において必要な基本的教養を会得し、専門の幅広い基盤を理解することを目標に、人文・社会科学、外国語などを学びます。アクティブラーニングを取り入れた授業により、基本的な学習能力、自主的に考え、発信する力やコミュニケーション能力を身につけます。

薬学専門教育

有機化学、生物学、物理化学など生命科学における基礎科目に加え、薬学科では実践薬学、薬物治療学、臨床薬学など医療薬学系応用科目を、薬科学科では創薬科学、天然物化学などの応用科目に重点を置き学びます。

薬学基礎実習

物理化学、分析化学、衛生薬学、合成化学、生物化学、薬理学、薬剤学など幅広い分野の実験をすることで、知識を深めるとともに基礎的な実験技術を習得します。

特 別 実 習

研究室に配属され、最先端の専門的な知識を学ぶとともに高度な実験技術を習得します。

CBT、OSCE

6年制の薬学科では、5年次で実務実習を履修します。その前に基本的な能力を有しているかを調べることを目的に、全国共通の薬学共用試験[知識を評価する試験CBT(Computer-Based Testing)、技能や態度を評価する実技試験OSCE(Objective Structured Clinical Examination)]を行います。これに合格しないと実務実習を行うことはできません。

実 務 実 習

学内で行う実務実習(事前実習)と病院や薬局で行う実務実習(病院・薬局実習)があります。質の高い薬剤師としての実践力を身につけるため、薬剤師業務に必要な基本的知識、技能、態度を習得します。

大 学 院

高度な専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的に、大学院には、薬科学科に対応する博士前期課程(2年間)と博士後期課程(3年間)、薬学科に対応する博士課程(4年間)を設置しています。[\(詳しくは→8ページ\)](#)

薬学科／薬科学科 1年次

薬学科と薬科学科の両学科における専門基礎知識は共通なため、1年次には共通性の高いカリキュラムを編成しています。豊かな人間性と知性を涵養^{かんよう}するため、外国語の他、総合大学として各分野の高い専門性を生かした科目を選んで履修する教養教育カリキュラムとなっています。また、薬学の意義を理解してもらうため、薬学概論などの専門教育科目を用意しています。さらに、国際化・情報化時代に対応できる語学教育や情報処理教育も充実させるとともに、高等学校の教育からスムーズに移行できるように基礎生物学や基礎物理化学も組んでいます。

初 年 次 セ ミ ナ ー	基 礎 物 理 化 学	薬 学 概 論 I ・ II
情 報 基 礎	基 礎 生 物 学 I ・ II	薬 品 分 析 化 学 I
総 合 英 語	有 機 化 学 A	生 薬 学

etc

薬学科／薬科学科 2年次

2年次になると、有機化学、薬品物理化学、生化学などの薬学の基幹となる専門基礎教育が本格的に始まります。後期からは薬学基礎実習も加わり、講義と実験を通じて専門科目の理解を深めます。薬学科においては、臨床医学概論や生理・解剖学など臨床を意識した科目も学びます。

薬 品 物 理 化 学	薬 剤 学 I	臨 床 医 学 概 論 I
生 化 学 II ・ III	薬 理 学 I	生 理 ・ 解 剖 学 I ・ II
有 機 化 学 B ・ C	衛 生 薬 学 I	薬 学 概 論 III

etc

薬学科／薬科学科 3年次



3年次になると、基礎科目に加えて薬学部ならではの専門科目が開講され、薬学科では薬物治療学や病原微生物学に加え、歯学部との共修科目を、また薬科学科では生物有機化学などの生命薬学の科目を組んでいます。さらに薬科学科では、創薬科学A・Bで医薬品開発や治療など創薬に関する基礎的な知識を系統的に学習します。後期からは研究室に少人数配属する形で、専門的な薬学実験を開始します。

薬 物 治 療 学 I ・ II	医 薬 品 情 報 学	創 薬 科 学 A ・ B
薬 剤 学 II ・ III	衛 生 薬 学 II	天 然 物 化 学
薬 理 学 II ・ III	分 子 生 物 学	生 物 有 機 化 学

etc

薬科学科 4年次

研究室に少人数配属する形で薬科学特別実習を行うことで問題発見・解決能力を養い、薬学分野の研究者・技術者に必須な実践力を身につけます。



科 学 英 語

薬科学特別実習

実験計画法

etc

薬学科 4年次

薬学科の4年次では、実践薬学や臨床薬学、医療コミュニケーションなどの医療薬学系科目で医療の場で必要な知識を学び、さらに後期の実務実習(事前実習)で薬剤師としての仕事の理解を深めます。4年次後期に薬学共用試験を行い、基本的な知識や技能・態度を評価します。



薬 理 学 IV

実践薬学 I・II

臨床薬学 II

薬物治療学 III・IV・V

薬事関連法規

臨床検査学

医薬品評価学

薬 剤 学 IV

実務実習(事前実習)

etc



薬学科 5・6年次

5年次は卒業研究を本格的に進めるとともに、主として実務実習(病院・薬局実習)を履修し、薬剤師に必要な知識、技能、態度を身につけます。

医療薬学総合演習

在宅医療実践学

医療薬学特別実習

etc

実務実習(病院・薬局実習)

病院実習は大学病院薬剤部で、薬局実習は長崎市内の薬局で、それぞれ11週間ずつ実施し、基本的な知識や技能および医療の担い手としてふさわしい態度を習得します。



高次臨床実務実習Ⅰ・Ⅱ

長崎大学薬学部では、より実践的で高度な知識を持った薬剤師を育てるため、通常の実務実習に加えて高次臨床実務実習を行っています。

5年次に実施する高次臨床実務実習Ⅰでは、6つの内科病棟や外来での診療参加型臨床実習を通して、患者の病態を把握した上で薬物療法を提案し、患者が抱えている種々の問題を発見・理解する能力を身につけます。

6年次に実施する高次臨床実務実習Ⅱの前半の医歯薬保健共修離島実習では、離島地域(新上五島町・五島市)における医療・福祉・保健の役割や相互の繋がりを体験することで、地域に根ざした全人的医療とチーム医療の一員としての自覚を涵養し、他の医療人とのコミュニケーション能力の向上を目指します。また、後半では、長崎大学病院の専門診療科で専門薬剤師に向けた早期体験型臨床実習を行い、臨床薬剤師に必要な実践的な技能や専門知識を身につけます。



学生による健康講話の様子

大学院について

卒業後、さらに高度で専門的な知識や技能を身につけたい学生のために大学院が設置されています。長崎大学では、薬学だけでなく、医学や歯学との学際的な領域の発掘や高度化を目的に、医歯薬学総合研究科として大学院教育を行っています。自分が目指す専門性に見合った専攻を選択することが可能です。

大学卒業後の進路の一例



薬学系には、生命薬科学専攻(博士前期課程2年・博士後期課程3年)と医療科学専攻(博士課程4年)の2つの専攻があります。

生命薬科学専攻

生命薬科学分野の研究者として自立して研究活動を行うことに加え、高度の専門性が求められる分野で活躍することのできる高い研究能力と豊かな学識を養います。

医療科学専攻

医療科学分野の研究者として自立して研究活動を行うことに加え、疾患の本質や病態を科学的かつ論理的に理解することのできる学識を養います。

本専攻では、下記のコースを履修することも可能です。
(ただし、履修にあたっての要件を満たした場合に限られます。)

- **専門薬剤師養成コース**(感染制御、糖尿病、精神科、妊婦・授乳婦)
各専門分野の医学・薬物治療に関する高度な知識と技能を活かして医療に貢献できる人材を養成します。
- **コーディネーター養成コース**
治験や地域医療との連携を統括し、薬物療法や公衆衛生に貢献できる人材を養成します。

大学院に関する詳細は、医歯薬学総合研究科のHPをご覧ください。
<https://mdp.nagasaki-u.ac.jp/>



キャンパスライフ

CAMPUS LIFE

薬学
サークル

準硬式野球部

硬式テニス部

サッカー部

バドミントン部

ブルーマウンテン
(軽音サークル)

茶道部

バスケットボール部

バレーボール部

MedFarm
(薬学生の勉強会・交流サークル)

先輩からの一言

薬学科 4年 平川 彩乃

HIRAKAWA Ayano

長崎大学薬学部では、薬学の基礎となる知識や技能を学ぶために、1年生から3年生前期にかけて行われる講義に加え、2年生後期から基礎実習も実施され、興味のある分野を見つけることができます。その興味に応じて3年生後期に研究室に配属され、研究室では、教員や先輩方のご指導のもと、今までに習ったことを応用し、薬学の知識や技能を向上させることができます。

また、薬学部だけのサークルが多く存在し、先輩方から大学の活動や進路などに関する貴重なお話を聞くことができます。さらに、全学のサークルや部活と掛け持ちすることもできるため、より多くの方と交流することができます。

受験生の皆さん、ぜひ長崎大学薬学部で充実した楽しい大学生活を送ってください。

先輩からの一言

薬科学科 4年 岩下 千大

IWASHITA Chihiro

長崎大学薬学部では、1年生前期から3年生前期までに講義や基礎実習を通して、薬学に関する基礎的な知識や技能を学びます。これまでの学びを基に、興味のある分野を選択し、3年生後期からは研究室配属を迎えます。研究室では、有機化学や生命科学といった自分の専門分野に関する知識をより深めることが出来ます。

課外活動の面では、薬学部独自のサークルがあるため、その活動を通して、薬学部内の縦の関係を築くことが出来ます。私自身は全学男子ハンドボール部に所属しており、さまざまな学部の部員と交流を深めています。代表を務めていた時期もありましたが、学部生活とうまく両立させることが出来ました。

高校生の皆さん、長崎大学薬学部で多くのことに挑戦し、充実した大学生活を送ってみませんか。皆さんのご入学を心よりお待ちしております。



薬学部の入試システム

Entrance
examination
system

募集人員	薬学科	薬科学科
学校推薦型選抜	8	4
一般選抜(前期)	32	36
合 計	40	40

入学料 ……………282,000円

授業料 (前・後期に分けて納入)
年額…535,800円

※入学料授業料については改正される可能性があります

入学志願者は、大学入学共通テストの受験が必要となります。
入試は、学校推薦型選抜と一般選抜(前期日程)です。

入試に関する最新情報や詳細は募集要項をご覧ください。

長崎大学入試情報

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/index.html>



入学料・授業料免除、入学料徴収猶予

経済的理由により入学料の納付が困難な場合、全額または一部が免除される制度があります。

また経済的理由により、入学手続き期間内に入学料の納付が困難と認められる場合、徴収猶予制度があります。

奨学金

① 日本学生支援機構

日本学生支援機構では人物・学業に優れ、経済的理由で修学が困難な学生に対し奨学金の貸与を行っています。

また、一定の要件を満たす学生を対象に、授業料・入学金の免除/減額に加え、給付型奨学金を支給する「修学支援制度」もあります。詳しくは機構のホームページをご確認ください。

② 各種奨学金

日本学生支援機構の他にも地方自治体および民間企業などで奨学金制度を設けている団体もあり、長崎大学でその募集を行っています。

日本学生支援機構の内容

奨学金の種類		貸与月額	返還利率
大学第一種奨学金	自宅通学者	20,000円 30,000円 45,000円	無利子
	自宅外通学者	20,000円 30,000円 40,000円 51,000円	
大学第二種奨学金		20,000円 、 120,000円 (10,000円刻み)	卒業後の 利率3% 上限

長崎大学薬学部HPでは、各種進学説明会やゼミナールの情報を掲載しています。

<https://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/admission/index.html>



研究室紹介

INTRODUCTION OF RESEARCH LABORATORIES

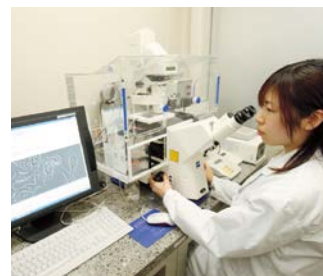
創薬薬理学

タンパク質を分解する仕組みに着目し、その生理的役割や病気との関わりを分子レベルで解明しています。こうした基礎研究をもとに、病気の原因を明らかにし、新たな治療薬の開発へとつなげることを目指しています。生化学・分子生物学的な手法に加え、ゲノム編集技術で作製したマウスを用いて、細胞から個体レベルに至るまで多角的に研究を展開しています。



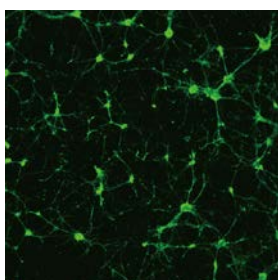
細胞制御学

生体は常にさまざまなストレスにさらされていますが、ある時はストレスに抵抗し、またある時はストレスに順応することで生体の機能を正常に維持しています。その際、一つ一つの細胞がストレスに対する応答性をどのように調節しているかを研究しています。



ゲノム創薬学

アルツハイマー病の危険因子の解析や本症の予防・治療法、早期診断法の開発に加えて、最近では痙攣性神経疾患に関連する遺伝子のシナプス機能における役割についても解析を進めています。基礎研究を通して、社会貢献に繋がる研究成果を上げ、人々の健康や福祉の向上にお役に立つことを目指しています。



薬化学

生体関連物質であるアミノ酸・ペプチドなどを、コンピューターを利用して新規に設計・合成し、分析機器を用いてその分子の3次元立体構造を解析しています。そして、その解析結果を基にして医薬品候補化合物を創り出す基礎研究、創薬ツールとしての利用や、不斉分子触媒・機能性材料などへの応用を目指した新しい領域の研究を行っています。



医薬品合成化学

医薬品の大部分は有機化合物です。私達は、医薬品の分子構造を精密に構築するための方法論について研究しています。具体的には、多様な反応を制御する効率に優れた触媒の設計・開発と環境問題に配慮したクリーンな反応システムの構築を二本の柱として、医薬品開発に必須である有機合成反応の開拓に取り組んでいます。



薬品製造化学

生物活性天然物には、発見当初のペニシリンのように、自然界から微量しか得られないものがあります。その場合、化学合成による供給が創薬研究に求められます。本研究室では「天然物の化学合成に基づく創薬の基礎研究」をテーマにしており、神経疾患やガン、感染症の治療薬のもととなる天然物を効率的に化学合成する研究を行っています。



創薬資源分子

生物活性を示す有機化合物は有用な創薬資源であり、探索・創製研究による創出が期待されています。本研究室では、特異な生物活性を有する化合物を単離あるいは化学合成により獲得することを目指します。また、見出した新規生物活性化合物を用いて、ケミカルバイオロジー研究や創薬研究へと展開します。



機能性分子化学

生体には、免疫細胞ががん細胞を排除するなど、がん化を防ぐ仕組みが備わっています。本研究室では、がん関連タンパク質、PPMホスファターゼファミリー、RNA関連分子に着目した研究を進めています。がん化や自然免疫応答、細胞記憶の分子メカニズムを解明することで、創薬や新たな治療法の開発への貢献を目指しています。



衛生化学

衛生化学は、環境や食品中のあらゆる物質とヒトとの関わりを探索する幅広い学問です。私達は、環境汚染物質の分析法開発と環境動態の把握や生体曝露評価、親電子物質などの化学物質の毒性発現機序および生体防御応答の解明によって地球規模の課題にアプローチし、病気の予防に役立てる研究を行っています。



薬品分析化学

蛍光・化学発光の現象やクロマトグラフィーの原理を利用して様々な分析法の開発を行っています。分析の対象は、私たちが健康な生活を維持するうえで欠かすことのできない生理活性成分、医薬品や健康食品、環境汚染物質等です。これらを測ることで健康状態の把握や病気の予防、診断が可能となります。



薬物治療学

病気になりやすい人、薬が効きやすい人、副作用が出やすい人などの体質に関わる遺伝子を同定し、その遺伝子の働きを解明することで、テーラーメイド医療の実践や病態メカニズムの解明を目指しています。また、感染症の原因となる微生物の薬剤耐性機序や病原因子に関する研究を行っています。



医薬品情報学

本研究室では、核酸医薬、細胞外小胞、細胞、細菌などの次世代モダリティの潜在力を最大限引き出すことができる、生体分子認識や生体環境を利用した薬物送達システム(DDS)を開発し、難治性のがん治療や再生医療を可能にする革新的な新薬や治療法の創製を目指した研究を行っています。



実践薬学

「医療の場で役立つ薬学分野の実践的な研究を展開することがミッションです。主として、臓器をヒト化した動物の遺伝子・タンパク質の解析から医薬品の効果・副作用を評価する研究、体内の異常な免疫反応の原因や癌特有のタンパク質変異を見つける研究、患者ごとに異なる薬物効果を正確に評価する研究を行っています。



薬剤学

体内の特定の臓器や病巣などの部位に、薬を選択的かつ持続的に運ぶ研究を行っています。そのためには薬の体内における挙動を把握する必要があり、様々な角度から解析しています。特にユニークなのは臓器表面投与方法で、分子量数百万の遺伝子医薬品も肝臓などの表面から吸収されることを明らかにしました。



臨床研究薬学

免疫系は、体に侵入した異物を排除するための体を守る大切な仕組みです。近年、免疫系の異常は、感染症やアレルギーだけでなく、癌、神経疾患、循環器疾患などの疾病の発症にも関連することが報告されています。本研究室では、免疫調節物質を探索し、その免疫調節機序を明らかにし、医療に役立てることを目指しています。



分子病態化学

病気は分子の何らかの異常(増減・構造・機能)が蓄積し、恒常性が破綻した状態です。我々は病気ごとにどのような分子異常が起きているかを精密質量分析で調べ、狙った臓器に核酸医薬などの薬剤を到達させるデリバリーシステムを開発しています。また、投与された薬物の血液中濃度を測定し、患者一人一人に適した薬量を設計する方法を開発しています。



協力分野

- ウイルス感染症学
- フロンティア口腔科学
- 神経回路生物学
- 先端創薬学
- 分子腫瘍生物学
- 薬品構造解析学

長崎大学薬学部HPでは、各研究室の詳細な情報を掲載しています。



<https://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/research/index.html>

設備、施設 FACILITIES

1

リフレッシュルーム・ お薬の歴史資料館・就職支援室

薬学部講義棟ならびに研究棟にはリフレッシュルームが設置されており、学生が休憩や自習に利用しています。講義棟の2階のリフレッシュルームには「お薬の歴史資料館」が併設されており、百味草筒や掛看板などの貴重な歴史的資料が陳列されています。無線LANも整備されており、インターネット情報検索やeラーニングを利用することもできます。また、講義棟1階には就職支援室もあります。



2

学生実習室

研究棟1階の学生実習室では、1学年約80人の学生全員が同時に実習を行うことができます。2年次の後期から3年次の前期の約1年間かけて、物理・分析・衛生・薬剤系、有機化学系、生物・微生物・薬理系の実習を行います。ここで薬学に関する実験技術や知識を基礎からしっかり身につけます。



3

講義棟

多目的ホール、第一講義室、第二講義室があります。講義の他にも、セミナー、研究発表会にも使われます。このほか研究棟5階に研修室があります。



②

4

ゲノミクス、 プロテオミクス 共同機器室

共焦点レーザースキャン顕微鏡など最新鋭の機器が設置されており、薬学部の研究活動を大きく支えています。



臨床実習室(薬学部)

OSCE用の調剤室やクリーンベンチなどが備えられており、実習などにも活用されています。



※坂本キャンパス

5

附属薬用植物園

1969年5月に文教キャンパスに移設されました。標本園、栽培研究圃場に区画され、約470種もの植物が植栽されています。2000年には、園内の一面に、シーボルト記念植物園が開設されました。シーボルトが日本からオランダに持ち帰ったとされる植物のうち5種類がライデン大学附属植物園から株分けされ、ここで、百数十年の年月を隔て、再び息づいています。



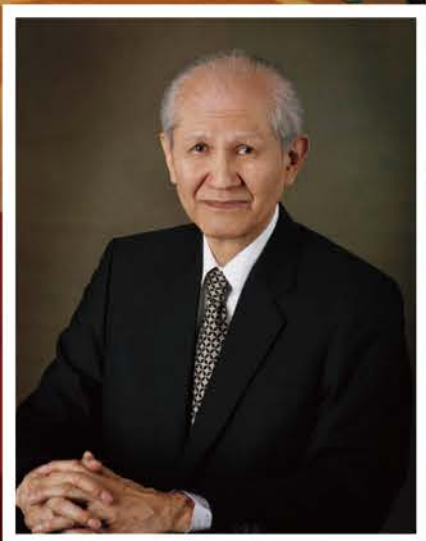
⑤

2008ノーベル化学賞受賞

研究の原点は、 長崎大学にある

下村 脩 SHIMOMURA Osamu

1928年～2018年。京都府生まれ。1951年(昭和26年)長崎医科大学附属薬学専門部(現長崎大学薬学部)卒業。卒業後、名称が変わった長崎大学薬学部で実験実習指導員を務めた。1960年フルブライト留学生としてアメリカに渡り、プリンストン大学で研究員として3年間過ごした。名古屋大学助教授、プリンストン大学上席研究員、ボストン大学客員教授などを経て、1983～2001年ウッズホール海洋生物研究所上席研究員。世界で初めてオワンクラゲより発光タンパク質イクオリンと緑色蛍光タンパク質GFPを発見し、その発光機構を解明した。細胞内標識としてタンパク質などの動きを観察できるGFPの技術は今や世界中の研究室で欠かせない道具である。その功績が認められ、2008年、ノーベル化学賞を受賞した。



下村脩名誉博士 顕彰記念館

下村名誉博士の功績をたたえるパネルや論文など80点が展示されており、平日の10:00から17:00まで一般公開されています。



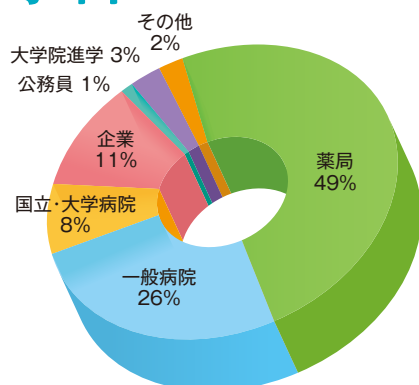
私は終戦と同時に中学卒業となり、上の学校に行くためにいろいろ努力しましたが、どこも受け入れてくれませんでした。2年が経ち、途方に暮れていたところ、自宅近くに原爆で破壊された長崎医科大学附属薬学専門部(現長崎大学薬学部)の仮校舎が移って来たのです。私はそこに偶然受け入れてもらいました。そして、ここで学んだことが、将来の化学研究への道を決定付けたのでした。

(長崎大学における下村名誉博士講演会より)

進路グラフと就職先

薬学科卒業生は主に病院と薬局に就職し、製薬企業や治験コーディネーターに進む人もいます。薬科学科卒業生のほとんどは大学院に進学し、大学院修了後に製薬や化学系の企業に就職しています。薬学部出身者は多くの業種で必要とされており、学部卒業生も大学院の卒業生も就職状況は良好です。

薬学科



薬学科（6年）卒業生の進路状況

● 薬剤師国家試験新卒合格率（%）

	長崎大学	全国平均
第110回（R7年）	95.2	85.0
第109回（R6年）	97.0	84.4
第108回（R5年）	97.1	84.9
第107回（R4年）	81.1	85.2
第106回（R3年）	88.2	85.6
平均（過去5年分）	91.7	85.0

参考：標準修業年限での合格率（入学して6年以内に合格した者の割合）
第107回 長崎大学：75.6%、全国平均：58.9%

主な就職先（薬学科卒業後）

【病院】長崎大学病院、重工記念長崎病院、春回会井上病院、済生会長崎病院、九州大学病院、久留米大学病院、福岡徳洲会病院、九州中央病院、健和会大手町病院、宮崎生協病院、済生会川内病院、敬愛会中頭病院、倉敷中央病院、名古屋市立大学病院
【調剤薬局・ドラッグストア】I&H（阪神調剤）、アイン薬局、イオンウエルシア九州、大賀薬局、総合メディカル、日本調剤、牧薬品、ミズ
【医薬品製造業】第一三共、大鵬薬品工業 【化学製品製造業】トクヤマ 【企業コンサルタント業】アクセンチュア

薬を使う

藻利 翔 MORI Sho

長崎大学病院 薬剤部 薬品情報室

2022年度 薬学科卒業

病院薬剤師の仕事内容は、内服薬や注射薬の調剤・病棟業務・医薬品管理業務・抗がん剤調製・TDM・治験関連業務など多岐にわたります。私は薬品情報室に在籍しており、最新の医薬品情報の収集・整理をして、多職種に情報提供することで、適切な薬物療法の実施に関わっています。薬に関する何気ない質問でも、自分が今まで学んできた知識を生かすことができると、やり甲斐を感じます。病院は幅広い業務を通じて、様々な視点から“薬剤師”という仕事について考えることができる環境だと思います。



薬をつくる

鈴木 莉乃 SUZUKI Rino

第一三共株式会社 研究開発本部
スペシャルタイムディン臨床開発部

2020年度 薬学科卒業

私は、製薬企業で新薬の治験を担当する臨床開発業務に従事しています。治験は、国の承認を目指し、研究段階の薬剤をヒトに投与して安全性と効果を確認する重要な試験です。臨床開発担当者は、治験計画を綿密に立て、治験を推進し、国への申請・審査対応をすることで医薬品開発に貢献します。新薬を必要とする患者さんのため、社内外の関係者と協力して1日も早い承認を目指し日々業務に取り組んでいます。長い時間が掛かるお仕事とはなりますが、担当した治験薬が医薬品として承認されたときには達成感があります。

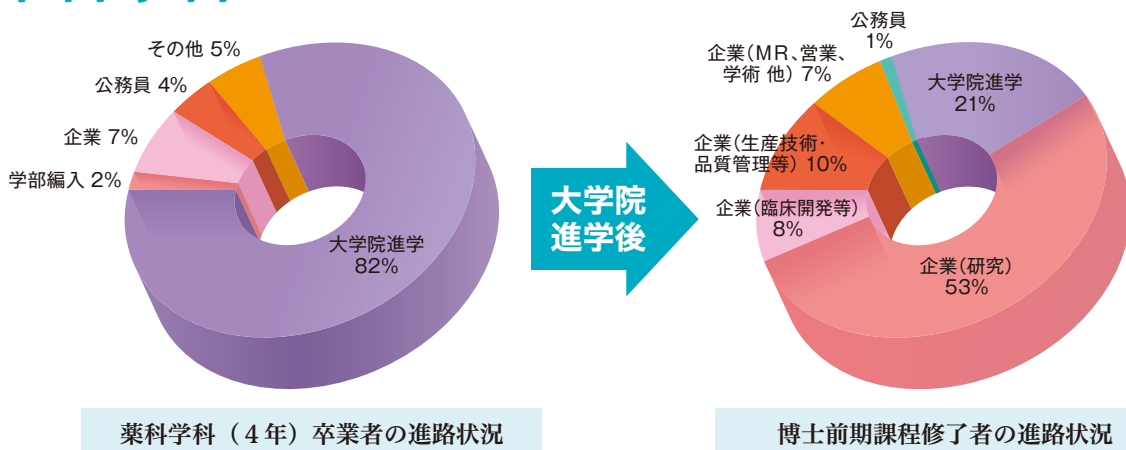


講義棟1階 就職支援室

求人資料を自由に閲覧できるほか、企業説明会も随時開催されています。



薬科学科



主な就職先（博士前期課程修了後）

【医薬品製造業】アステラス製薬、大塚製薬、キッセイ薬品工業、ゼリア新薬工業、第一三共、第一三共バイオテック、大鵬薬品工業、日本新薬、PDRファーマ、阪大微生物病研究会
 【化学製品製造業】ADEKA、トクヤマ、三菱ガス化学
 【医薬品製造受託・治験支援】サンブラネット、メディサイエンスプランニング 【研究職人材派遣】BCラボ
 【公務】長崎県警察科捜研 【大学院進学】長崎大学医歯薬学総合研究科、東京科学大学生命理工学院

薬を知る

太田 遼佑 OHTA Ryosuke

株式会社ツムラ 漢方研究開発本部 ツムラ漢方研究所
漢方研究一部 臨床研究G

2020年度 大学院博士前期課程修了

私は漢方薬に特化した製薬会社で、漢方薬の臨床研究に携わる部署に所属しております。漢方薬は既に上市されている薬ですので、新薬とは異なり効果があるという実績が先で、後からエビデンスを創出するという流れになります。そのため、漢方薬を科学的に解明する必要があります。そこで、私は医師を支援する形でそのエビデンス創出に向けた臨床研究を推進する業務を行なっています。現在行っている仕事の成果がまだ治療が行き届いていない患者様に貢献できることにやりがいを感じ、日々の業務に取り組んでいます。



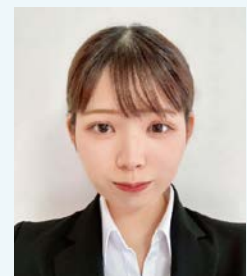
薬をつくる

藏根 夏美 KURANE Natsumi

エイツーヘルスケア株式会社 臨床開発本部

2021年度 大学院博士前期課程修了

私は、製薬会社から医薬品の承認を得るために実施する、患者様を対象とした臨床試験「治験」の円滑な実施をサポートする仕事をしています。主な業務として、医療機関への訪問や日々の連絡を通し、治験が適切に実施されているかの確認や症例データを収集し進捗状況の管理を行い、患者様の安全及び治験の質が保証されているかを確認しています。様々な新薬の開発に携わることで、一人でも多くの患者様の健康や命に貢献することが私の目標です。



卒後教育の取り組み

長崎大学薬学部地域薬剤師 卒後教育研修センター

長崎大学薬学部では、平成18年度から地域薬剤師を対象に卒後教育研修に取り組んでいます。同年度から薬学6年制が開始されたこともあり、4年制卒業の薬剤師の更なる研鑽が求められています。そこで学んだものをより深めるためには実習や演習が必要です。本センターでは、従来の研修には見られない実習および演習を主体とした研修を実施しています。

また、特別講師による公開講演会も開催しています。



参加者からの熱心な質問

育薬研究教育支援の取り組み

医薬品の有効性及び安全性を向上させる育薬の観点から、医療の多様化に加え、感染症や環境汚染などによる健康被害の防止にまで拡大した国民のニーズに的確に対応できる高資質の薬剤師が求められています。そこで長崎大学薬学部では、このような先導的な薬剤師養成のための教育プログラムを開発して実践し、育薬に関する研究活動および臨床共同研究を支援するために、育薬研究教育センターを平成28年4月に設立しました。育薬研究教育センターでは、育薬に関する講演会、研修会等を行うことにより、学生の才識の向上を図り、社会に貢献できる先導的な薬剤師の育成並びに若手研究者の研究支援を推進しています。



国際学術交流

薬学部では国際化にも力を注いでおり、諸外国大学との学術交流を常時行っています。
世界各地の大学と協定を結んでいます。

学術交流協定を締結している大学

- チュラロンコン大学 (タイ)
- 台北医学大学 (台湾)
- 中国薬科大学 (中国)
- ニューメキシコ大学 (アメリカ)
- 五邑大学 (中国)



創薬研究教育支援の取り組み

下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念 創薬研究教育センター

長崎大学薬学部では、平成22年度から本センターを設立し、学部生、大学院生及び若手研究者を対象に創薬科学教育及び研究支援を行っています。本センターでは、長崎大学薬学部の先端創薬科学に関する研究活動や国際交流活動を推進するとともに、高度創薬教育を通じて、学生の社会における実践力や国際性を涵養し、将来の創薬科学を担う有為の人材の育成を行っています。特に、製薬企業、大学等の著名な国内外の創薬研究者を招聘した講演会等を行っています。

また、研究支援や授賞を行うとともに、高等学校等での啓発活動等も積極的に支援しています。



交通アクセス ACCESS

文教キャンパス

●JR及び高速バス利用の場合

①JR長崎駅から

路面電車 「長崎駅前」→(赤迫行き)→「長崎大学」下車

長崎バス 「長崎駅前」→(1番系統「溝川」、「上床」、「上横尾」行き)→「長崎大学前」下車

②高速バスの場合

「昭和町」下車

●航空機利用の場合

県営バス 「長崎空港4番のりば」→

(昭和町・浦上経由長崎方面行き)→「長大東門前」下車

坂本キャンパス

●JR及びバス利用の場合

JR長崎駅から

路面電車 「長崎駅前」→(赤迫行き)→「大学病院」下車

長崎バス 「長崎駅前」→(1番系統)→「原爆資料館」下車

●航空機利用の場合

県営バス 「長崎空港4番のりば」→

(昭和町・浦上経由長崎方面行き)→「原爆資料館」下車



問い合わせ先



長崎大学生命医科学域・研究所事務部
薬学系事務室学務担当

〒852-8521 長崎市文教町1-14

TEL 095-819-2416

<https://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/indexj.html>



2025年 刊行

本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。